

自分事として考える（自律）

■生徒コメントより ★保護者コメントより

■日常的な言葉づかいやマイナス発言を減らし、周りの人のことを考えて発言することを意識した。■呼びかけを人任せにしていた部分があったので、呼びかけを増やせるように頑張った。■提出物やプリントなどの課題をやらなくてはいけなくてわかっていて、結局やらず前日や当日に急いでやっていた。余裕をもって終わらせるなどして、提出日に出せるようにしたい。■今ある課題が何なのか自分で考えて、そのために何をすべきか一日の目標として行動し、委員会などのキャンペーンや取組に積極的に参加できた。★家では軽く声かけだけして、自分で自主的に時間を決めて課題に取り組んでいます。★課題は理解しているが、なかなか行動に移せていないようです。もっと自分の気持ち、考えを表現できるとよい。

「自分事として考える」場は、学校生活の課題（言葉遣い、提出物等）だけでなく、毎時間の授業で設定される課題にも当てはまります。課題を把握し、解決したいという心からの願い（志）がもてたとき、与えられた課題であっても自分の課題になるわけです。学校生活の中で最も多くの時間である授業でこそ、自分事として考える土台づくりの場。「各教科で大切にしている見方や考え方を身につける」のは学校でしかできないことです。基本に立ち戻り、学校の本分を果たします。

お互いを認め合う（協働）

■よりよい生活をつくろうとしても仲間とぶつかることがあった。でも少しよさを認め合うことができた。■相手のよいところを見つけて、自分もよいところを吸収できた。■仲間のよさを認めて「すごい!」と思うことがあったが、自分のよさは何なのかわからなくなりました。■自分の得意なことを生かしたり、自分の苦手なことを教えてもらったり、助け合うことができた。■人権キャンペーンのぽかぽカードを通して、仲間のよさを見つけることができた。でも同じ学年でしか、よさを見つけれなかった。★わが子の良さも悪さも理解してくださっていて、うまく話をしてくれているのが伝わってきます。★先生に評価してもらえたことをうれしそうに話す様子があった。その一方で担任からの伝達が遅いため困ることがあると話すこともあった。

「お互いを認め合うことができた」という生徒の割合が高いことは、七宗中の誇れるよさです。「自分のよさがわからない」という意見も、見方を変えれば、自分に向き合っている証拠。成長しています。保護者からいただいた課題を真摯に受け止め、一層生徒のよさを認めていきます。

まずやってみる（挑戦）

■初めの方はやりたくない気持ちが多かったけれど、勇気をもって班長や団リーダーに挑戦できた。■どんなことも迷ってしまえなかった。■苦手だった教科や提出物を自分から進んで挑戦することができた。■あまりやったことのない役割に挑戦することができた。なるべく弱音を吐かずに取り組むことができた。まだすぐあきらめてしまうときがあった。■後期はリーダーに立候補して不安だったけれど、一歩踏み出すことができた、まだ周りにどう働きかけていくかという部分で課題があるので、ふさわしい動きをしていきたい。★家ではできなかったことを言わず、できるようになるにはどうしたらよいかを考えさせるようにしています。★最初からあきらめやすいところがあるので、なんでも挑戦できるように声かけをしたいと思います。★総合の経験を機に製菓に興味をもつようになり、希望する高校の範囲が広がったのはよかった。

エジソンは「私は失敗したことがない。ただ1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」と語っています。自分にとって本当に値打ちある挑戦ならば、結果（成就感）を得るまで挑戦し続けることができるのだと思います。他人と比べず、自分にとっての挑戦をともに見つけ支援します。

引き続き七宗中の教育活動にご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。